

# 文学者 その人と作品

文学の楽しさは作品を味わうことにありますが、その作品を書いた作者の人物像を知ること、作品の世界はさらに大きく広がります。

今年の埼玉文学講座は、児童文学の石井桃子、俳句の長谷川かな女、短歌の加藤克巳、詩の蔵原伸二郎を取り上げます。これらの文学者と直接関わりがあった方々が人物像と作品について語る全4回の講座です。作品の解説だけでなく、文学者の人柄についてもたっぷり語っていただきます。

日時 平成28年9月1日、8日、15日、22日(各木曜日)

14時から15時30分(13時30分開場)

場所 さいたま文学館1階 文学ホール(定員200名)

第一回	石井桃子	石井桃子の「愛」に魅せられて	星野和央氏
第二回	長谷川かな女	かな女文学の和らぎについて	落合水尾氏 星野光二氏
第三回	加藤克巳	加藤克巳のフロンティア精神	沖ななも氏
第四回	蔵原伸二郎	永遠に消えていった狐の詩人	中原道夫氏

**対象** 埼玉県内在住・在学・在勤の方  
**費用** 無料  
**定員** 200名(申込多数の場合は抽選)  
**申込方法** 往復はがき(1人1枚)に、講座名(埼玉文学講座)、氏名、住所、電話番号、年齢を明記し、さいたま文学館「埼玉文学講座」係へ  
**締切** 平成28年8月15日(月)消印有効

お問い合わせ・申込先  
**さいたま文学館**

〒363-0022 桶川市若宮1-5-9

電話 048-789-1515 FAX 048-789-1517

URL <http://www.saitama-bungakukan.org/>

さいたま文学館

検索



# 講師紹介

## 第1回

○9月1日

星野 和央 氏(株式会社さきたま出版会会長)

北足立郡三室村(さいたま市緑区三室)生まれ。県立浦和高、明治大学卒業。社会思想社に入社。編集部門に携わり、1973(昭和48)年、取締役編集部長で退社。翌1974(昭和49)年、さきたま出版会を創業。これまで約1000タイトルを出版している。現在は取締役会長。PTA、ロータリー、埼玉文芸家集団をはじめ、多くの地域活動にも取り組む。2016(平成28)年、さいたま市と連携しつつ「石井桃子の会」を発足させ、その代表世話人。石井桃子と遠戚にも当る。

## 第2回

○9月8日

星野 光二 氏(俳人・「水明」)

旧浦和市生まれ。埼玉銀行に入行。退職後「水明」に入会。星野紗一に師事して俳句を一から始める。「水明賞」、「季音賞」を受賞。2005(平成17)年、第四代水明主宰となる。2011(平成23)年、埼玉県俳句連盟会長、埼玉文芸家集団副代表となる。現在、埼玉新聞「埼玉俳壇」、毎日新聞「毎日俳句」埼玉版、「俳句四季」四季吟選者。埼玉県俳句連盟名誉会長、埼玉県現代俳句協会副会長、さいたま文芸家協会理事、日本現代詩歌文学館振興会評議員など。

落合 水尾 氏(俳人・「浮野」主宰)

加須市生まれ。1951(昭和26)年、俳句を始める。1956(昭和31)年、長谷川かな女に師事。「水明」に入会。1959(昭和34)年処女句集『青い時計』刊。1966(昭和41)年、谷川岳林間俳句学校開設。1975(昭和50)年『長谷川秋子の俳句と人生』刊。1977(昭和52)年「浮野」創刊、主宰。2006(平成18)年埼玉文化賞受賞。朝日新聞埼玉文化欄俳壇選者。句集『円心』など10冊。

## 第3回

○9月15日

沖 ななも 氏(歌人・「熾」代表)

茨城県古河市生まれ。1974(昭和49)年、加藤克巳の主宰する「個性」に入会。個性賞など受賞。「個性」の編集長を経て、「個性」終刊後、「熾」を創刊し代表となる。歌集『衣裳哲学』で現代歌人協会賞・埼玉文芸賞受賞。歌集10冊のほか、エッセイ集、入門書など多数。朝日新聞埼玉版および埼玉新聞の短歌欄選者。埼玉文芸賞および埼玉文学賞選考委員。現代歌人協会常任理事、埼玉県歌人会副会長。

## 第4回

○9月22日

中原 道夫 氏(詩人・「漪」編集発行人)

所沢市生まれ。日本ペンクラブ、日本文藝家協会などに所属。日本詩人クラブ永年会員。埼玉文芸家集団副代表。埼玉文学賞審査委員。埼玉新聞「埼玉詩欄」選者。著書に『日本現代詩文庫第1巻 中原道夫詩集』の他、詩集13冊。詩論集『現代詩 されど詩の心を』など3冊。他小説、エッセイ集など。詩誌『漪』編集発行人。1956(昭和31)年に上梓した処女詩集『石の歌』は蔵原伸二郎が序文を書いている。